一人一人の心に“平和のとりで”を　　～西遠女子学園慰霊式に参加して～

5 月 16 日（木）

西遠女子学園で行われた慰霊式典に、浜松ユネスコ協会平和委員会のメンバーが招待され参列いたしました。この式展は、1945 年浜松が大空襲を受け、その時、学徒動員先の工場で犠牲になった西園女子学園の生徒さん２９名と引率教員１名の死を悼み、毎年彼女らの冥福を祈り、平和の尊さを願うために行われています。ステージは手作りの千羽鶴と花できれいに飾られていました。この花は、９０１名の生徒さん達一人一人が、それぞれの思いを込めて家から持ち寄った花で、可憐な花に平和への強い願いを感じられました。静寂の中にもしっとりと落ち着いた雰囲気で式が始められました。

黙祷に続き、ＮＨＫ制作の「明日への伝言小さな赤いトマト」が上映され、戦争の悲惨さを訴えました。特に浜松大空襲の映像は、戦争の悲惨さをより身近に私たちに訴え、命の大切さを教えてくれました。続いて、岡本肇校長先生から「前校長先生の岡本富郎先生は、初代浜松ユネスコ協会会長を引き受け、スタートしたばかりのユネスコ活動に尽力された。これも学徒動員で犠牲になった生徒さん達への思いがあったからこそ、ユネスコ会長を引き受けられ、自らの平和への誓いを新たにした。この学園で慰霊式を続けていることは学園の誇りであり、これからも**一人一人の皆さんの心の中に平和の砦**を築いていって欲しい」と、富郎先生の平和への切なる訴えと平和への願いを話されました。そして、高校生徒会の小野加奈子会長は、**「戦争は決して消えることのない傷を心に残す。真の平和の意味を考え、発展に向かって努力していきたい。」**と誓いの言葉を述べました。その後、生徒さん３名が本や戦争体験者への取材に基づいて書かれた「平和の作文」の発表をされました。

「戦争で勝っても負けても良い事はない、戦争は、人の命を奪うだけでなく、人の心の中にある優しさをも奪ってしまうものだ。」と思いました。

戦争で沢山の人が亡くなり、生きたくても生きられなかった時代と比べると、今は、平和が当たり前の時代です。食べ物が豊富にある事や電気や水にも困ることはありません。その事が、私にとっては当たり前です。だから私は、命を大切にしようと思います。優しい気持ちも忘れてはいけないと思います。

（高校３年〇〇〇〇さん「平和の作文」より抜粋）

西遠女子学園の慰霊式に参列させて頂いて、共に 68 年前の戦争の悲惨さ悲しみを感じ、今の幸せに感謝したいと思いました。もちろん戦争を知らない私たちには本当の悲惨さは分かりませんが、先人の苦労を肝に銘じ、二度と戦争は起こさない、平和な世の中にしていかなくてはと強く思いました。そして、毎年このような会を通して、薄れていく戦争の苦しい体験を若い人たちに語りつないでいくことの大切さを痛感いたしました。（大石　幹子）